

— 住学協同への実験 —

筑豊ゼミ研究会報 11月号

NPO 法人住学協同機構筑豊地域づくりセンター・筑豊ゼミ研究会報第 16 号 2014 年 11 月 10 日

筑豊ゼミ研究会発表会 in 永昌会 (飯塚市本町商店街元近大亭)

12 月 1 日(月): 第 27 期筑豊ゼミ各研究会の活動状況を展示発表致します。

12 月 6 日(土): 各研究会の展示発表と共に、**独楽研究会では、大名独楽の実演の他、**
いろいろな独楽を用意し、皆さんにコマ回しを楽しんでいただきます。

11 月例会は 11 月 19 日(水)午後 7 時～9 時

[ひきこもり研究会: 11 月 13 日(木)午後 7 時～8 時 45 分 飯塚市民交流プラザ]

受付(市民遺産研究会)は視聴覚教室(4号館1階)で行います。インフォメーション(連絡事項)等を、最初に行いますので、受付後午後 7 時迄視聴覚教室に待機してください。

市民遺産研究会(4号館4階、4103 教室)

- 1) パワーポイントにて「飯塚歴史探索ルート」みてもらう。
- 2) 飯塚近郊の見どころを展示する内容を検討する。

独楽研究会(4号館1階、4401 視聴覚教室)

- 1) 机の高さを変えて回す。
- 2) 回した時の安定度をビデオで調べる。
- 3) 安永氏が独楽のふらつき現象についての話をする。

ひきこもり研究会

(日時:11月13日(木) 午後 7 時より、場所:飯塚市民交流プラザ)

- 1) 2014 年学校基本調査報告(不登校)の解説
- 2) 不登校、引きこもりの進路について、話をする。

情報発信/データデザイン研究会(午後 5 時 3 号館 3 階 3304-B: 情報工房)

- ・筑豊ゼミ、筑豊地域づくりセンターの Web サイトのコーディング
- ・Web サイトに掲載する文章作成の依頼

(前日までに pdd 研 chikuzemi.pdd@gmail.com 宛に了解をとって頂ければ、参加できます。)

筑豊ゼミ・研究会報告

市民遺産研究会

10月定例研究会

会長 白神 精一

これまでの調査したエリアを戒田研究室のコンピューターを利用させていただき完成内容をシミュレーション討議した。

- 1) グーグルマップに落とした飯塚エリアの遺産箇所を大型画面にて映像を確認する。マップ上に名称を入れて、クリックすることにより説明や画像へと移るような内容に仕上がることを全員が確認。
- 2) マップ画面上のスペースが限られるので、長い名称や詳細の位置に入れることは難しい。
- 3) 画像も数種類の写真を挿入し、其々に説明しておく方が見る側にとって理解しやすくなる。視覚で受け入れることは非常にわかり易いもので、これからは大いに利用したい手法の一つであることがわかった。

地図上で込み入った箇所は地図を拡大して名称の重なりを無くすなど見易さをもとめて、より解りやすいものをつくりあげてゆこうとしています。

独楽研究会

10月定例研究会

会長 笹原 泰史

発表会の内容について打ち合わせをしました。

- 1) 独楽研究会で大名独楽の回転数と回転時間の測定を実際に行って見せる。
- 2) 子供さんからみんな回せる独楽で回転数と時間を測定してあげる。
- 3) 色々な独楽を展示及び回して遊んでもらう。
- 4) スペースがあれば飯塚こまを来訪者に回す指導を行う

9月定例会にて回したが回転時間が短かったので日本の独楽資料館で同じ独楽で実験したデータにて吉田氏が報告。

回っている独楽に風があたらない様にカバーをした時、回転時間が長くなったので空気の流りに回転時間が左右される事が分かる。

新しい独楽(薄い独楽)を独楽資料館でMAXの回転数(1900回転前後)で回したところ18分40秒回る独楽が14分～17分30秒程しか回らなかったが1週間後に再度回したところ19分30秒と最高タイムがでた。

このことについて回転数＝回転時間も必要ですが回し方にも関係する事も考えられる。

ひきこもり研究会

10月定例研究会

会長 野田 隆喜

24日 午後7時より8時 参加者3名 ・ 見学者 2名(ひきこもりに悩む保護者1名・19才当時者1名) *見学者2名は11月より入会希望者

現在33才男性の26才頃、社会参加に意欲のあった頃のビデオ視聴。

その後 解説と意見交換

解説

中学時代1番の成績であり、高校進学において父の意向に従い進学校に入学したが、各地区の優秀な生徒の集まりであり挫折。高校不登校・家庭内暴力・ひきこもり重ね、22才の時野田と出会う。4年間の関わりをもったが 結果現在も自宅でひきこもり中。年齢がいくほど「プライドを傷つけない助言」の困難さ。

また「就労から回避する心持ち」や「寛容でない社会」そして「公的支援の現状」まで解説
参加者よりの意見 質問

1 精神科の診察で「異常なし」となれば、社会は「働ける」となり、厳しい反面「みな辛くても働いている。甘えている」もわかるし どうしたものか

2 プライドの扱いの難しさ。どう向き合えばよいのでしょうか？

3 訪問活動(アウトリーチ)できる方の育成 と 居場所の開設が急務

* 就労を前提にした居場所的な場所は若干あるが、就労を前提にしない居場所は現在のところ皆無に近い

* 訪問活動をしている者はごく僅かであり、その研修方法も十分には確立されていないのが現状。公的には保険師 民間では民間団体が僅かに活動中

以上

ビオトープ研究会 ビオトープ見学会報告

ビオトープ研究会 会長 七條 真衣

大学の建造物の建て替えなどが、耐用年数と耐震構造の面から建て替えが計画されていますが、その際、大学構内に環境教育の一環としてビオトープの建設が計画されている。学生の立場からどのようなビオトープが良いか提言する為に、ビオトープに関する講演や見学などを行ってきた。昨年は、甘木市にあるキリンビールの工場内のビオトープを見学したが、今回は里山と繋がった形のビオトープ(山口県にある[里山ビオトープニ俣瀬])の見学をした。

平成26年10月11日(日)の8:50に大学を出発し、11:40に里山ビオトープに到着し、見学した。参加人数は27人で、図に示すような、4つのエリアに分かれ、1時間ぐらいで見て回れる大きさであった。このビオトープはもともと田んぼであったた

め、自然と生物が共存しやすい環境が整っていた。そのため、マムシなどの危険な生き物に遭遇する可能性もあるが、本物の自然環境にとっても近いものであった。



図 ホームページ(http://www.nexyzbb.ne.jp/~shoji_waka/intro.html)参照

図に示すように草原ゾーン、湿地ゾーン、ため池ゾーン、田んぼゾーンがありその奥には山から続いている川があった。去年訪れた麒麟ビール工場内のビオトープでは水がポンプで供給されている人工的なものだった。ビオトープの定義でいけば、人の手がどこまでいれられるのか問題も残るが、手を加えてしまうとビオトープとは呼べなくなってしまうのではないかという疑問も残りました。しかし、麒麟ビール工場内のビオトープは、多分に工場の宣伝（ホテルが住めるほどのきれいな水を使ってビールを作っているという多分に会社の宣伝を行っている）のために作られているが、里山ビオトープでは山から流れてくる川の水を水源としているので、このビオトープは天然に近いビオトープになっていると考えられる。

里山ビオトープに入ってすぐ目に入ったのは、シンボルとなる大きな水車がある草原ゾーン。次にため池ゾーン、田んぼゾーンだった。草原ゾーンがある下流から田んぼゾーンの上流までを歩いた。草が生い茂っている草原、湿地ゾーンを抜け歩いていると一面黄金色のたんぼが広がっていた。このビオトープは、本来のビオトープの意味（生き物があるのままだに生息する場所、野生生物のすみか）に加えて、自然と町の接点、緩衝地帯である「里山」の再生に重点を置いている。このため、本当の意味では自然とは言えない水車、田んぼなども施設の一部となっていた。

参加者には各々自由にビオトープ内を散策してもらった。道を歩けばバッタやカマ

キリ、蛙などがおり、流れる川を覗けば小さな魚が泳いでいた。自然の中を歩くことが減ってきている中、自然と触れ合うことができ良い経験になった。ほとんどの人がビオトープ初体験だったため、どのようなものか肌で感じることもできたという好評だった。今回の見学会を通して、ビオトープのことがだいぶ理解でき、今後の活動の糧となるものが得られたと思われる。



今回実施したアンケート結果は以下の通りです。

今回の見学会では、ほぼ全員の人に満足してもらうことができていた。

主な意見としては、

- ・自然を見ることで心が安らかになった。
- ・ビオトープと周りの民家が共存できていた。
- ・美しい自然に冒険心がわいた。

次回の課題としては、ビオトープについての知識があまりなかったため、どこに注目していいかわからなかった。ただ見るだけになってしまった反省から、ビオトープ内に生息している、生物、植物などを写真に収め、後でデータを整理し記録に残すことが重要で、次回からは専門家を講師に呼んで、説明を聞きながら見学をしていく必要があるように感じた。

また、次回の見学先として、北九州市の響灘ビオトープという意見が多かった。

情報発信/データデザイン研究会 (pdd 研) 10月定例研究会

会員 情報学科2年 田中 翔

情報発信/データデザイン研究会(pdd 研)は、近畿大学産業理工学部の学生が、ホームページなどの情報発信媒体を通じて筑豊地域の活性化を図る目的として平成26年に作られた組織です。主な研究内容は、どうすれば筑豊地域の人々に興味・関心を持ってもらえるようなホームページを作れるのか、どうすればより効果的に筑豊の良い所を知ってもらえるのか、それらを学生がこれまでに得た知識を活用し、形にすることをしています。

[10月の活動内容] pdd 研は毎週水曜日にウェブサイトの制作について会議を行っています。今月は、WordPress を利用して実際に筑豊ゼミのブログ制作に取り組みました。(WordPress とは、ブログを作成するためのアプリケーションのことです。)

図1が実際に作成したトップページのサンプルです。WordPress のテンプレートを利用したため、以前提示したワイヤーフレームからデザインが変更となりました。配色も仮のものなので、図1のサンプルから変更する予定です。

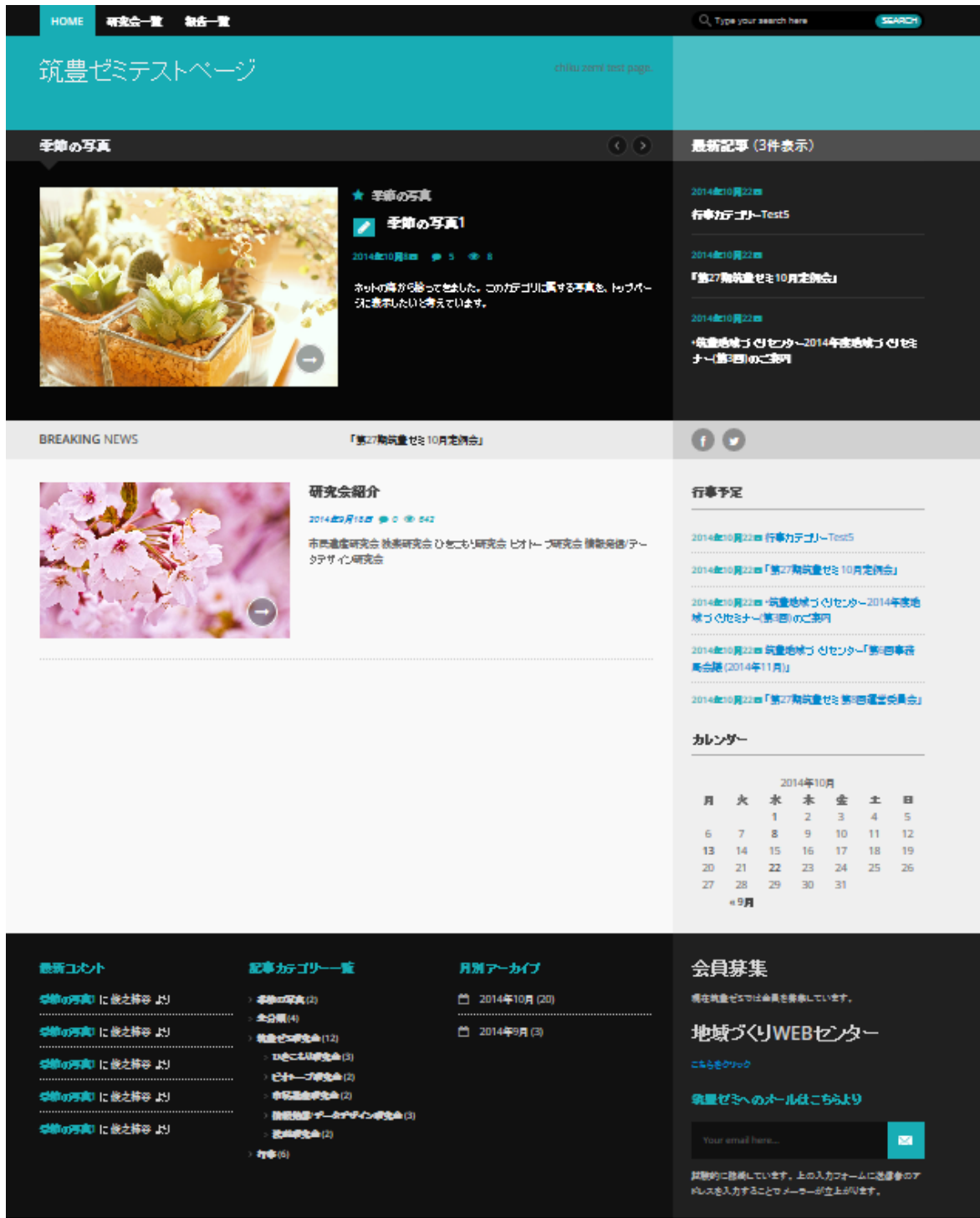


図1. 筑豊ゼミトップページ(テストページ)

情報交差点

筑豊での話題やイベント情報を掲載します。予告や結果報告等、皆様からの情報を待っています。

送付先 e-mail : chair@chikuzemi.com (運営委員長) : sec@chikuzemi.com (事務局長)

URL: <http://www.chikuzemi.com/> (筑豊ゼミ)

<http://www.chikuhou-jugaku.org/> (NPO 法人住学協同機構筑豊地域づくりセンター)

I Love 遠賀川

第 20 回流域住民交流会 & 第 2 回流域連携フォーラム in 嘉麻

～人の輪が織りなす遠賀川の魅力づくり～

日時:平成 26 年 **11 月 23 日(日)** 13:00～

会場:なつき文化ホール(嘉麻市岩崎 63-8) [入場無料]

13:00～ オープニングアトラクション「川筋太鼓保存会 飯塚響学館(飯塚市)」

13:40～ 基調講演「山上憶良と遠賀川流域の暮らし」

講師 嶋田光一 氏(飯塚市教育委員会文化財保護課長)

14:45 スケッチコンクール及び写真コンテスト 表彰式

15:15 活動事例発表 ①アカザを守る会の取り組み(アカザを守る会) (添田町)

②ゴミの減量作戦(葦の利活用)(嘉穂水辺の楽校)(嘉麻市)

16:30 懇親会 ※懇親会参加費 3,000 円【事前申し込み・当日徴収】(18:30 終了予定)

花子と白蓮 孫の語る 真実！スペシャルトーク イベント

～アンのゆりかご 村岡花子の生涯～

日時:平成 26 年 **12 月 9 日(火)** 19:00 ～ 20:30

会場:イイヅカコスモスコモン中ホール (飯塚市飯塚 14-66 TEL 0948-21-0505)

出演者など:[ゲスト] 宮崎黄石 / 山本晃一 / 村岡美枝 / 村岡恵理 [司会] 瀬下麻美子

入場料金:1,000 円 ※特典:トークイベントチケット提示で旧伊藤邸の入場料無料

定員:500 名 全席自由席

主催:花子と白蓮 実行委員会(問合せ先:飯塚市商工観光課(桜井・橋本) TEL 0948-22-5517)

発行:NPO 法人住学協同機構筑豊地域づくりセンター 第 27 期筑豊ゼミ

責任者:第 27 期筑豊ゼミ運営委員長 菊川 清

編集者:第 27 期筑豊ゼミ運営委員会事務局長 主税 洋三

住所:〒820-8555 飯塚市柏の森 11-6 近畿大学産業理工学部気付 第 27 期筑豊ゼミ

連絡先:090-9485-5985 (運営委員長 菊川) 090-8624-2886 (事務局長 主税)

e-mail: chair@chikuzemi.com (運営委員長) sec@chikuzemi.com (事務局長)